

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 西棟)

事業所番号	0691900039		
法人名	社会医療法人 公徳会		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	南陽市桐塚929		
自己評価作成日	令和 6年 9月 6日	開設年月日	平成19年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット目に記載

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 10月 1日	評価結果決定日	令和 6年 11月 25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が理念を常に意識するように事務室に掲示している。共通理解を持ち日々のケアに活かせるよう理念についての学習会を行い、個別に月間目標を掲げケアに取り組んでいる。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の時に地域のボランティアサークルの方と交流があったが、感染予防の為出来ていない。近所のスーパーへ買い物や外出に出かける機会を設けている。地区の春祭りで子供神輿に来てもらった。地域で開催される敬老会に参加予定している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ぬくもりカフェにデイルームを開放し利用してもらい、グループホームについて理解してもらっていたが、現在は感染予防のため中止している。認知症についての相談事があれば随時対応している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の実情や利用者様の状況、サービスの内容、評価への取組み状況等について報告し話し合いを行い、そこでの意見を可能なものについてはケアに取り入れ双方向な会議にしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の福祉課の担当者に運営推進会議に出席してもらい、事業所の実情を伝えている。芋煮会に担当職員を招待し、利用者様と交流する機会を設けていたが、感染予防のため出来ていない。制度等で分からない事があれば積極的に聞いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての学習会を行い禁止の対象となる具体的な行為を理解し日々のケアを振り返り、そのような行為をしない事を確認しあっている。身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、身体拘束をしないよう話し合い、会議結果について全職員が目を通すようにし、共通理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止法について学習し虐待についての具体的な行為を理解し、日々のケアを振り返りそのような行為をしない事を確認している。利用者の身体にあざや傷等変化がみられた時は、職員間で何によるものか明らかにして虐待でない事を確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護について学習会を予定している。成年後見制度を利用している方がおり、後見人と相談しながら本人に必要な支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や改訂の際は利用者様の家族に丁寧に説明し、疑問がないか尋ね、理解納得してもらっている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意向・要望等を注意深く受け止め可能な限り応えるようにしている。家族の来所時に直接意見や要望を聞くようにし、年に1度利用者様・家族にアンケートを行い、それらの要望に応えるよう努めている。随時、電話やオンライン面会時に要望を聞いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設会議やフロア会議で職員の意見や提案を聞き運営に活かし、必要があれば上部の会議に提案し可能な限り運営に反映させている。設備や備品で運営に必要な事があれば検討して設置している。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上期・下期に分けて事業計画に沿って各自目標を設定し仕事に取り組んでいる。半期ごとに実績や頑張りを評価し各自が向上心を持って働けるように努めている。家庭環境や事情を考慮し勤務調整、休み等の相談に応じ、安心して働けるようにしている。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はそれぞれのレベルに合った研修に参加出来るようにしている。施設内では学習会係を中心に認知症ケアに関する学習会・その他の伝達研修をして全員がレベルアップできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修に参加し、他の施設の方と情報交換を行っている。質問等あれば他の施設に電話で相談、情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	カンファレンスを行い、生活歴や心身の状態を把握したうえで本人と話す時間を多く持つようにしている。不安や要望などを聞き入れ安心して生活を送ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を取り巻く家庭環境を把握し不安や要望に耳を傾けてより強い信頼関係を築けるように努めている。また、その内容をケアプランに活かし提示している。入所後は家庭に利用者様の様子を電話や手紙などで伝え安心してもらえるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の相談内容を十分に見極め、本人の状況や本人及び家族の意向に沿ったケアを行えるように努めている。必要があれば他のサービスや制度などを紹介している。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お茶会などの生活の中で職員と利用者様が一緒に過ごす機会や会話を持つ時間を意識して多く設けている。洗濯物畳みや食器拭きなどを一緒に行い、お互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	継続して新型コロナ感染予防に努めながら可能な限り家族にカンファレンスに参加してもらい、施設での生活の様子を伝え家族の意見を聴いてお互いの思いや意見を共有している。または電話やオンライン面会の際に情報交換を行っている。毎月の家族への手紙の中で本人の変化、生活の様子や出来事などを写真を添えて詳しく伝えている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族などの来訪時は本人の部屋で過ごせるように配慮している。家族からの電話は居室等で落ち着いて会話できるようにしている。オンライン面会ではお互い顔を見ながら会話を楽しんでもらえるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しながら食堂内の座席を決め楽しく交流できるようにトラブル防止に努めている。対人関係がうまくいかずにいる時は利用者様の気持ちに配慮して職員が個別に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にホームでの行事や出来事などの思い出の写真をアルバムにして渡し、終了してからも思い出してもらえるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から本人の希望や困っている事など意向を把握するように努めている。希望に対してできるだけ本人の意向が活かせるように柔軟に対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴や暮らし方を聞き把握している。職員間で情報を共有しホームでも得意な事は、力を発揮できるような場面をつくり援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを観察し、性格や考え方を把握すると共に出来る事、出来ない事を理解したうえで自分で出来る事は行ってもらうように支援している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全体で本人や家族の要望を聞き、アセスメントをもとに定期的にカンファレンスを行い情報交換や現状を把握しプランを作成している。リハビリ担当者に評価をしてもらいプランに沿って機能訓練を行っている。また、モニタリング表を活用し、ケアプランに沿ったケアが出来たか毎月確認している。カンファレンスには家族やデイケア職員も参加してもらい、参加できない場合はオンライン面会時や電話で意向を伺っている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアを実施しての反応や職員の気づき、工夫を具体的に書くように努めている。申し送りシートを活用し情報共有している。職員間の意識の共有を図りながら介護計画にも活かしている。現在電子カルテに記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアプラン作成時、本人と家族の状況を把握し、その際に出てきたニーズに対応して柔軟な支援やサービスを提供することが出来ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染防止の為、ボランティアの受け入れは控えている。季節ごとに外出レクやスーパーへ買い物に外出する機会を設けている。当法人の夏祭りには地域の方や家族も参加し、一緒に楽しい時間を過ごされていた。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院の受診は職員が通院介助を行っている。受診時にはホームでの様子を伝え、結果は記録して職員間で共有している。他科受診に関しては家族に依頼し情報提供し、必要時は職員が付き添い医師に状況を伝えている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態の観察を行い、身体面や心配事があれば看護師から助言を得ながら日々のケアに活かし健康管理に努めている。体調不良時には早期受診を行っており、毎月医師、看護師に往診に来てもらっている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	医療連携室や病院関係者との情報交換を密にしている。また、必ず退院前訪問や面談で情報交換、情報収集を行い、退院の時期や今後の方向性などの相談を行っている。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について、入所時やカンファレンス時に家族の意向を聴き、方向性を話合っている。また、定期的に家族の方へ「重度化した場合や終末期のあり方について」の記入をお願いしている。そして、身体状況に問題が生じた場合は迅速に主治医と家族との面談を行い、状態の説明や今後についての相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のフローチャートの見直しを行い、スタッフの動きや連絡形態を確認している。緊急搬送時の備えとして各利用者様のサマリーを毎月更新して作成している。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の避難訓練とホーム独自の避難訓練を行っている。水害時の訓練は、一時避難場所の玄関までの訓練、防水シャッターの設置訓練とした。火災時の訓練は、今後地区消防団に参加してもらい実施予定。災害時は法人内で連携し支援体制が整っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いで利用者様の意見を尊重する対応を心がけている。利用者様のケアを見直し、プライバシーの侵害にならないよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望を積極的に聞き取り、行事や個別ケアに取り入れている。個別の買い物などは混雑しない時間帯に出かけるなどの対策を行っている。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大事にして食事・入浴時間・就寝時間などを臨機応変に対応し、その人らしい生活が出来るよう支援している。食事やお茶会なども希望に応じて個別に居室で行うこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問の床屋を利用して本人の希望される時に好みのカットや顔そりを行っている。衣類の選択等は出来る方は自分で選びやすいように衣類を配慮して自由に着替えてもらっている。化粧品や個別のシャンプー等も好みに応じて使ってもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きや出来る範囲で参加してもらっている。一緒に調理を行い、食事を楽しむ機会を設けている。夏祭りでは屋台から好みの物を購入して特別な食事を楽しんでいる。病状で制限のない方はお茶会の飲み物を好みに応じて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的な血液検査でアルブミン値を測定し、毎月の管理栄養士からの指導、相談で個別の対応を行っている。電子カルテや水分チェック表を活用し、摂取状況を把握し、栄養や水分が確保できるよう努めている。一人ひとりの好みに合わせ、水分摂取してもらっている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラッシングが出来る方は声がけをして自分でしてもらい。介助が必要な方には、一部介助や義歯の洗浄を定期的に行っている。口腔内の状態によっては個別のケアで義歯の適合の確認、歯牙の欠損状況を定期的に把握し、変化がある場合は速やかに治療を勧めている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、個々の排泄パターンや言動から声がけやトイレ誘導を行い、失禁の軽減やトイレでの排泄を促している。尿量に適した排泄ケア用品を選び交換回数も個別に対応し自立支援と清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排泄の確認を行い一人ひとりの排泄サイクルや水分摂取量を把握し、便秘時は医師の指示を受けながら下剤を使用してコントロールしている。乳飲料の摂取と水分を多く摂るように努めている。また、軽体操や間食に寒天を使ったものを提供して便秘予防に努めている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回以上で曜日を決めているが希望や体調による変更にも随時対応している。リフト浴を導入し、一般浴利用困難な方も安全で快適に入浴出来ている。入浴時間や湯温の設定を個々の希望に合わせて対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの体調や希望に合わせて休息出来るよう支援している。不眠の方は医師と相談して薬の処方や服薬時間等を細かく調整している。また、個別に体操するなど日中の運動量を増やして安眠に努めている。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別にファイルし内容を直ぐに確認できるようにしている。処方内容の変更は診察ノートと申し送り職員全員が把握し状態観察を行い変化があれば医師に報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下準備、食後の食器拭きや片付け、洗濯物たたみ、自室のゴミ捨てなど出来る事を行ってもらっている。季節行事や誕生会開催、近辺への散歩やドライブを行っている。得意な手仕事や創作活動などは個別に関り支援している。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別のアンケートで希望を聞き取り外出レクを再開した。外食やスーパーで買い物をしたり、足湯に行っで楽しまれている。家族のお祝い事や行事での外出や外泊も可能で個々に対応している。他科受診での外出は家族の付き添いでお願いしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持希望がある場合家族の了解を得て少額としている。個別援助として買い物に同行し支払いまでの支援を行っている。外出困難な場合は買い物代行を行い、立替分の明細を毎月送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をかける、家族など外部からの電話に取次ぎ対応している。また、手紙の取次ぎも同様に対応している。携帯電話の所持も可能で、現在は常時携帯電話を預かり、希望時に発信支援を行っている方が1名。その他にオンライン面会での支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事開催時の写真を掲示したり、季節の飾りつけで四季を感じられる環境づくりに努めている。また、ダイルームのテレビはどこの席からでも見られるように複数台設置している。定期的に温湿度を測定し、エアコン操作で適した室温、湿度に調整している。眩しすぎないよう照明の明暗を調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やソファコーナーの共用スペースで思い思いに過ごしてもらっている。ダイルームの食席についても、大小のテーブルがあり、個々に合わせてゆっくり落ち着いて過ごせる空間作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に写真や使い慣れた時計、テレビなど利用者様の好みや馴染みの物を持ち込む事が出来る。生花を飾る方、漫画本やオーディオ機器で音楽を楽しむ方など、居心地よく安心して過ごせるように配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は全てバリアフリーになっている。廊下やトイレ、浴室等いたるところに手すりがあり、利用者様の安全と自立を意識した造りになっている。安全の確保と自立への配慮に努めている。		